

# 学校教育との関わりを継続して 見えてきた課題・今後 ～県言語聴覚士会より～

一般社団法人 新潟県言語聴覚士会  
学校教育・発達支援連携委員会  
鍛冶山 洋 志塚めぐみ



# 学校教育・発達支援連携委員会の経過

学校教育連携ワーキンググループ (日本言語聴覚士協会では「学校教育部」)



学校教育連携委員会



現在は『学校教育・発達支援連携委員会』



# 県言語聴覚士会の学校派遣事業について

2014年（平成26年）より現在も継続中

学校側からの依頼にて、県士会員を派遣し相談等に応じる。

学校側の負担は無し。

派遣を受けた会員には交通費込で1回5,000円の謝礼を支払う。

（研修会講師としては、この枠では受けない）



# 学校と協働するスタンス

「特別支援教育は、特別なものではない。通常の学校教育と同じ目的である。多様な子どもの実態と同じ目的を持つものである。」

「授業は子どもの主体的な学びを支援し導くものである」

「言語聴覚士は教員と対等に協働する立場である」

日本言語聴覚士協会 岡崎宏 理事



# 大会テーマ

## 地域共生社会に向けた協働と挑戦

### 「共生社会に向けた協働」と「学校教育連携」

○障害のある子どもない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶ場を目指す。

○「合理的配慮」

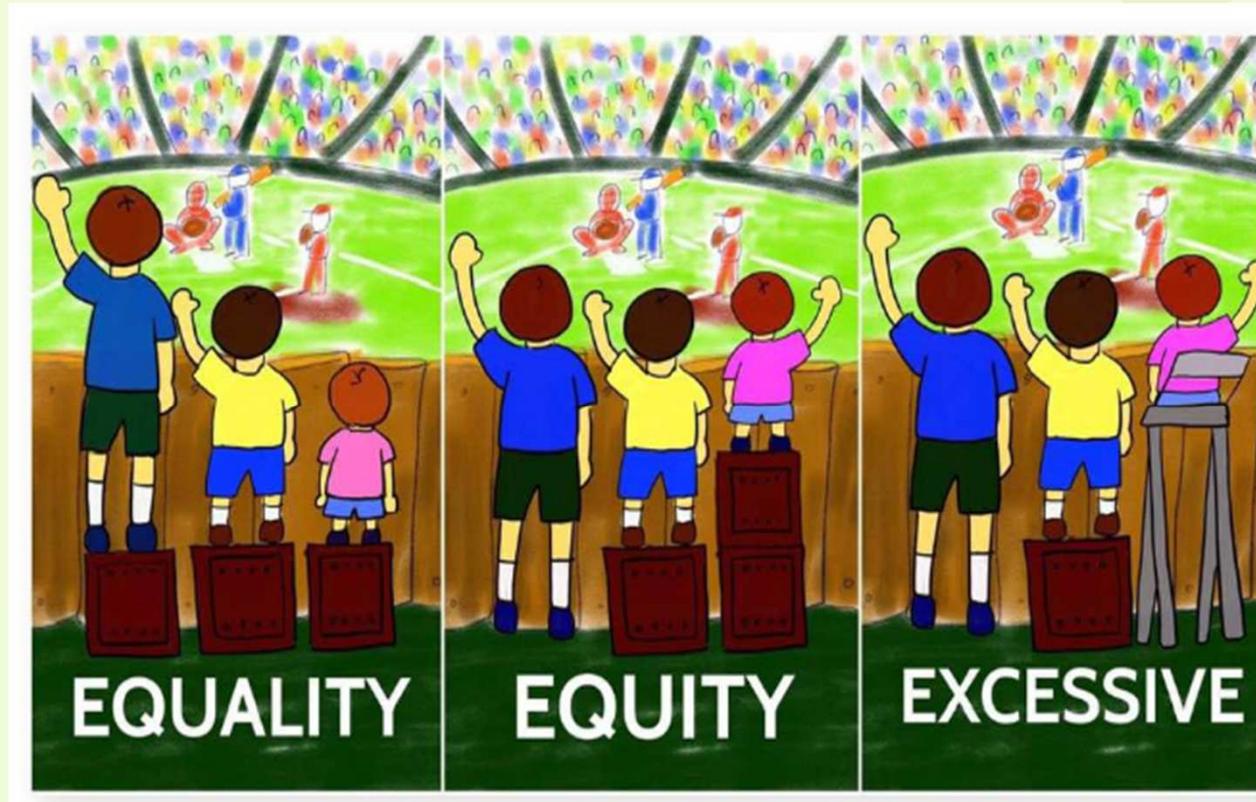
障害のある子どもが、他の子どもと平等に教育を受ける権利を保障する。

○「多様な学びの場の整備」

**外部専門家**等を活用し障害のある子どもへの支援の充実



# 合理的な配慮 「平等」と「公平」と「過剰な支援」



<https://www.magicaltoybox.org/kinta/2018/12/13/18131/>



# 県ST士会 派遣事業

全62件（2014～2022の8年間）

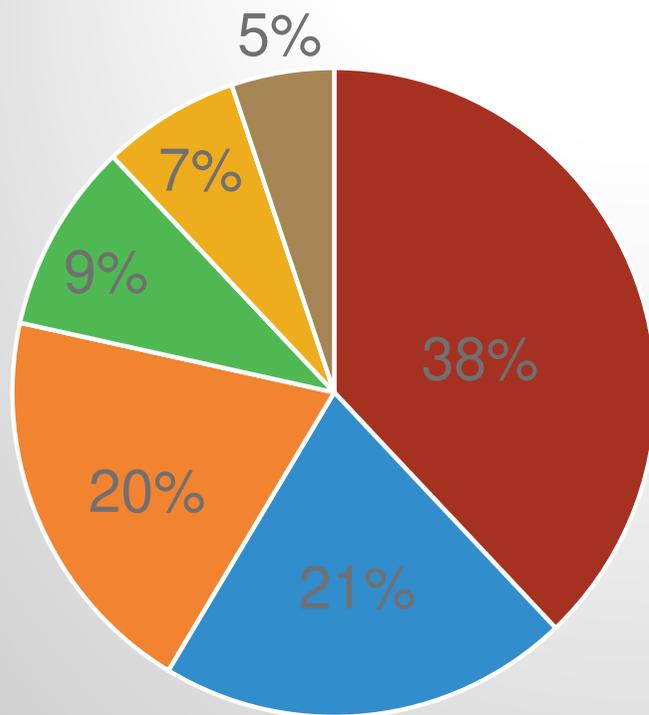
特別支援学校 14件（うち聾学校1）

小中学校 通常の学級 32件  
（言語通級指導教室など含む）

小中学校 特別支援学級 16件  
（小学校11 中学校5）



# 相談分野について



- 構音障害
- 発達性読み書き障害
- 言語・コミュニケーション
- 吃音
- 摂食嚥下障害
- 音声障害



# 地域別 件数

新潟市内  
26件

上越地区  
2件



下越地区  
7件

中越地区  
27件



# 県士会員からの協力

- 8年間で**14名**の県士会員から協力を得られた。
- 回数 ST1人あたり 1～13回
- 平均4.4回 最頻値 1回で5名
- **約3.9%**の会員から協力を得られた。

2022. 3末 県士会員358名



# 最近の派遣事業の変化

言語通級指導教室（ことばの教室）からの強い要望があり、応えるべきフォローを含め年度内で複数回の対応を開始した（2021年～）

コロナ禍の感染拡大で予定されていた指導の延期もあったが、ICT利用による対応も実施。

（2022年～）



# 学校教育×外部専門家団体

岡崎氏 「特別支援教育は、多様な子どもの実態に合わせた教育のバリエーション」であり、「決して特別なものではない」

その子どもに、必要な配慮を一緒に応援することが協働するということになる。



# POSによる相乗効果 Synergy

$$PT1 + OT1 + ST1 > 3$$



# 課題と今後

**各士会の人材育成⇒**

**どれだけの人数を？どこまでのTherapistを？**

**資金⇒**

**いつまで？いくらまで？**

**システム構築⇒**

**広い新潟県をどうする？**

**3士会のプラットフォーム？が良いのか？**



# まとめ

**多職種協働の意味を発揮する  
べくして、継続し続ける必要が  
ある。**

